

大東亜戦争

宮浦 美佐

昭和 16 年 12 月 8 日突如ラジオから米英陸海軍と戦争状態に入れりとアナウンスされ、瞬時に札幌の街全体の商店は戸をおろし死の街となりました。私は丁度数え年 20 歳の青春のさ中でした。

* * * * *

昭和 7、8 年小学生の頃登校すると運動場での校長先生の朝礼で毎回決まったように緊縮時代を説いておられました。子供心に満州事変^{*1}の始まりをひしひしと感じたものです。支那事変^{*2}も始まり、昭和 20 年 8 月 15 日の終戦まで延々と続きました。

* * * * *

職場だった北海道拓殖銀行では昭和 14、15 年の日中戦争から若い行員が応召、出征して壮行会で頭取の激励、私達女子事務員は「勝って来るぞと勇ましく」を幾度歌ったことか、50 余年を振り返り感無量です。

戦中戦後の食糧難で空地という空地は畑と化して馬鈴薯、南瓜と競って作ったものです。

義姉と 2 人でよく肥桶を天秤棒で担ぎ畑に撒き、野菜作りにあけ暮れたものです。

米のやみ買も当別、江部乙にと幾度となく出掛けたものです。

若さもあってリュックに 2 斗の米をかつぎ苗穂駅まで着くと改札口には警察官がやみ米の取締まりをされていて取り上げられますので、機関庫の横の連結して止まっている列車の間をよじ登り、裏側より一目散に逃げ帰ったあの日のことなどが鮮明に思い出されます。

私の街には一坪の空地もなく、江別の角山と云うところへ行き泥炭地のひどい土地に馬鈴薯や南瓜、豆類を作り、只々食べることのみの毎日でした。また、町内の勤労奉仕で石炭積みに行きますと、きまって氷砂糖の配給があり、それを目的に出掛けたものです。あの時代の重労働はごくごくあたり前のことでした。

* * * * *

私達兄弟 6 人、男は 5 人で 2 人は現役入隊、3 人は召集、家には年寄 2 人と義姉と私の 4 人暮らしでした。

次兄は北支の激戦で負傷し、また、長兄は 8 月 15 日の終戦を知ってか、知らずか、ロシアとの激戦でモンゴル国境で戦死したそうです。公報は 8 月 26 日戦士とあり 11 日間の心境如何ばかりかと考えさせられました。

* * * * *

私の街はお陰様で本州と違い恐ろしい程の空襲も無く、海のある街には艦砲射撃で大変苦

労された様子でした。

何と云いましてあゝの東京の大空襲と広島、長崎での原子爆弾投下は悲惨そのものと思います。

空前の負け戦、占領軍駐留、自失の中に民主主義の世が始まり、私はこの戦争を肯定も否定もできませんが敗戦と云う現実をみつめますと矢張り陸海軍上層部の無知から生じた最悪なことと思っております。

戦後に育った方々には想像もつかないことばかりでしょうが、最後に私は戦死した多くの方と兄の冥福と後に続く子孫のために二度と再び悲惨なことのなきよう祈ってやみません。

人の世は悲しい事の多かりき
過ぎし年月を今更思う

(みやうら みさ 大正 10 年生まれ)

***1 満州事変** 昭和 6 年～8 年におきた満州侵略戦争。関東軍がしかけた鉄道爆破（柳条湖事件）を機に戦端が開かれた。若槻礼次郎首相は、不拡散大方針をとったが、現地軍部はこれを見做して翌年上海事変をおこし、さらに満州国を建設した。戦火は昭和 8 年の塘沽（タンクー）停戦協定により一応収まったが、以後日本は昭和 20 年に至る十五年戦争に突入した。

***2 支那事変** 昭和 12 年におこった日華事変のこと。